



# 営農NEWS



## イチゴ栽培でハダニ類やうどんこ病の発生に十分注意し 防除を徹底しましょう

イチゴ栽培では、ハウスのビニル被覆による保温が行われ、これから大切な収穫時期に入っていきます。

しかし、病害虫発生予報 12 月号（県病害虫防除所）によりますと、11 月下旬現在、イチゴハダニ類の寄生葉率および発生地点率ともに平年よりやや高い状況とのことです。

昨年も、ハダニ類の発生がやや多く経過しましたので、前年に被害の見られた圃場では、今年も特に注意が必要です。

また、うどんこ病は、11 月下旬現在、平年並の発生状況ですが、これからは、うどんこ病や灰色かび病の発生しやすくなる時期となります。これら病害は、直接、果実発病による減収を招きますので、常に発生に注意し、早期発見、早期防除の徹底に心がけてください。

今後、収穫期に入りますと、多忙のため防除が疎かになりがちですが、イチゴの病害虫は、増殖、拡散して、多発すると防除効果が十分に上がりにくくなってしまいますので、常に発生状況の確認と的確な防除に努めてください。

### ＜ハダニ類、うどんこ病 灰色かび病 防除のポイント＞

- 1) 発生を見逃さないよう、葉裏や葉柄、果梗、果蕾などを丁寧に観察してください。
- 2) 発生を確認したら、少ないうちに薬剤防除を実施してください。この場合、葉裏や下葉にもよくかかるよう、株全体に丁寧に散布することが特に重要です。
- 3) 既に多発生した場合には、罹病葉や葉柄、果梗、果実等の病部を摘み取ってから、薬剤散布を行ってください。
- 4) 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、気門封鎖剤を除く同一系統剤の連続散布は避けてください。
- 5) ミツバチや天敵を放飼している場合には、薬剤の影響等について、メーカーや関係機関等から必ず指導を受けてください。

表 1 イチゴ ハダニ類の主な防除薬剤（平成 27 年 12 月 1 日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※
コロマイト水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	1 日
カネマイトフロアブル	1,000~1,500 倍	収穫前日まで / 1 回	□
マイトコーネフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	□
ダニサラバフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	□
サンヨール	500 倍	収穫前日まで / 6 回以内	○
粘着くん液剤（デンブン）	100 倍	収穫前日まで / -	-
エコピタ液剤（還元澱粉糖化物）	100 倍	収穫前日まで / -	-

注) 気門封鎖剤（粘着くん、エコピタなど）利用上の注意点：①薬剤により、マルチの汚れや果実に薬害を生じることがあるため、各薬剤の特性をよく確認して使用してください。②気門封鎖剤は、直接ハダニ類にかからないと防除効果がないため、株全体に十分量の薬液を丁寧に散布します。③ハダニ類の成虫には有効ですが、卵には十分な効果がありませんので、残った卵からふ化した成虫を防除するためには 5~7 日間隔で数回散布してください。

表 2 イチゴうどんこ病の主な防除薬剤（平成 27 年 12 月 1 日現在）

薬剤名	系統	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※
アフエットフロアブル	SDHI	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	□
ガッテン乳剤	チアゾリジン	5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	○
トリフミン水和剤	EBI	3,000~5,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	□
パンチョ T F 顆粒水和剤	フェニルアセトアミド+EBI	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	○
フルピカフロアブル	アニリノピリミジン	2,000~3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	1 日
ジーファイン水和剤	炭酸水素塩+無機銅	750~1,000 倍	収穫前日まで / -	○

※その他、被覆後には硫黄粒剤のくん煙処理が可能ですが、その際は専用の電機加熱式くん煙器を利用してください。

注) 表 1、2 のミツバチ※は、ミツバチへの影響の目安を茨城県病害虫防除指針（平成 27 年版）より抜粋しました。○は薬液が乾けば当日に導入可、□は影響がほとんどなく翌日に導入可、1 日は散布後 24 時間は影響し、散布 2 日後に導入可ですが、天候、施設内の環境条件（温度、換気等）により日数が前後することがあり、注意が必要です。なお、-は指針に記載なしです。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040